

【Insectopia (インセクトピア)】とは: insect (虫) と utopia (理想郷) を掛け合わせた造語
『蟲たちを含む、地球上に生きる全ての仲間が快適に生きることができる世界』を創るため、SHELLグループがお届けする情報発信ニュースレター。



オリンピックと環境問題～パリ五輪での取り組み～

来年7月に開催されるパリ五輪まで1年を切りましたが、開催による地球環境への負担が問題視され、これまで以上に環境への配慮と持続可能性が課題となっています。本号ではオリンピックと環境問題の関係性や今後に向けた取り組みについて紹介します。

オリンピックが環境に及ぼす影響

華やかな祭典の裏側でこれまでも様々な影響が懸念されてきていますが、その代表的なものが下記4点です。

1. 施設建設時の自然破壊

大規模な土地の開発や建物の建設により、自然環境の破壊や生態系の変化など環境破壊のリスクが高まります。例えば、湿地帯などの自然地域が無作為に開発されると、動植物の生息地が失われ、生物多様性が減少します。そもそもこのような大規模な建設プロジェクトでは、土壌や水質、大気の汚染など、環境への悪影響から完全に免れることはありません。

2. ごみの排出

大会が開催されると国内外から数十万人規模で観光客が訪れ、大量のごみが排出されます。慣習の異なる人々が集まることで分別も甘くなり、資源循環そのものが停滞してまいります。

3. 廃墟化

大会開催後に、建設された施設が活用されずに廃墟化する事例もこれまで多く発生しています。巨額の費用や資源を投じて建設された施設が、オリンピックのためだけの一時的な施設として役目を終えています。未来に繋がるレガシー化を実現しなければなりません。

4. 食品ロス

2021年に開催された東京五輪では、大会組織委員会が、約13万食の弁当が廃棄されたことを発表しました。食品ロスは、環境負荷や貧困問題とも繋がる世界的にも深刻な課題です。

持続可能性を考慮した取り組み

オリンピックの環境問題を受け、近年では、2012年のロンドン五輪が『オリンピック史上もっとも環境に配慮した大会』を目標として環境負荷の低いオリンピックを開催したり、2024年に開催予定のパリ五輪では使い捨てプラスチックを禁止する方針が発表されたりと、環境に対する取り組みは活発化しています。また、パリ五輪の組織委員会は、『パリ2024年フード・ビジョン』を発表しました。その中には、4週間で提供される1,300万食の平均二酸化炭素排出量を半減させること、使い捨てプラスチックを半減させること、製品の80%を地元またはフランス国内で調達すること、食品廃棄物を削減し、消費されなかった資源を100%回収すること、すべてのケータリング機器を再利用することなど、持続可能性を実現させるべく目標が含まれています。このような施策が絵に描いた餅にならないように、私たちそれぞれが意識して見守ることも“五輪参加”の新しいカタチといえるかもしれません。

持続可能性を創造する

パリ五輪の取り組みについて触れてきましたが、オリンピックに限らず、ごみの排出や食品ロスなどの対策は、個人でも今すぐ実践することができ、一人ひとりの意識改善が持続可能な社会を実現させます。私たちシェルグループも、『サステナビリティ』を重要視し、環境に配慮した事業展開を通じて、次世代の地球環境を守っていくことに寄与していきたいと考えています。



世界に広がるトコジラミ被害（続編）

～被害が広域に及んでいる状況～

韓国でのトコジラミ被害『ピンデミック』

2023年秋、パリでのトコジラミ発生が世界的に話題になりましたが、韓国でもトコジラミ被害が相次いで報告されています。韓国では2023年11月以降相次いでトコジラミ被害が発生し、2023年11月末にはトコジラミ発生件数が週50件あり、11月第1週に比べ約5倍に増加し、大きな問題として取り上げられるようになりました。トコジラミへの不安から韓国語『ピンデ』と世界的大流行を意味する『パンデミック』を合わせた『ピンデミック』という新造語も登場し、韓国国内での混乱が伺えます。



日本のトコジラミ事情

韓国での『ピンデミック』以降、韓国や中国などの海外通販を利用した方が「荷物からトコジラミが出てきた」といった内容の動画をSNS上にアップし、拡散されています。そのなかには信憑性に欠ける情報も多く、いたずらに国民の不安を煽っている状況ともいえますが、海外輸入の家具や荷物などと一緒にとコジラミが持ち込まれる可能性はある為、冷静に、そして速やかに何らかの対策を講じることは必要になっていきます。

また、今年11月22日には「大阪メトロ谷町線にトコジラミが...」といった内容がSNSに複数投稿されました。写真付きの投稿では無かったため真偽は不明ですが、その後、大阪メトロは11月24日から全線・約1,380車両を対象に掃除機での清掃を行ったとされています。今後も、真偽問わず様々な情報がインターネットを通じて世に出回るとは思いますが、それぞれが正しい情報かどうかを見極め、対策を行なうことがとても重要です。シェルグループでも、予防、対策などの客観的な情報提供、発信に努めていきます。

『スーパートコジラミ』の出現

最近、市販の薬剤が効かない『スーパートコジラミ』が出現し、日本でも増えています。その個体の薬剤抵抗性は通常のトコジラミに比べ、約1,000倍と言われています。スーパートコジラミが発生した場合はプロの業者による物理的な施工を入れられない限り完全駆除が難しいとされています。

トコジラミに限らず害虫駆除にはどうしても限界があり、どのように『予防』するか、が今後の大きなテーマとなります。現在、シェルグループでは建物の建築段階から『予防』という観点でアプローチしていく『ベストインスペクション』を提供しています。主に、害虫が侵入しづらい構造の提案、発生時の対応や、必要な知識・情報を効率よく学ぶことができるe-Learningの提供も行っています。薬剤の使用をなるべく抑える新たな方面からアプローチしていくことが、人間と環境を保護する上で大切だと、私たちは考えています。

今月のInsect



写真/解説
中峰 空
8thCAL技術顧問
興南公園昆虫館館長



越冬中のキイロスズメバチ (黄色雀蜂)

ハチ目スズメバチ科

学名：Vespa simillima xanthoptera

柔らかく朽ちたアカマツの倒木中で越冬するキイロスズメバチの新女王。秋に交尾した新女王は越冬後、4月には活動を開始する。女王1個体で始めた巣作りは秋には数百個体、ときに1000個体を超えるコロニーになる。巨大な巣を営んだ女王とワーカーは共に冬には死滅し、新しく生まれた女王が次の世代を繋ぐ。

Information

●メディア掲載情報

Yahoo!JAPAN SDGsに弊社代表・岡部の取材が掲載されました。これまでのシェルグループの歴史や事業内容、そして、この先のビジョンや岡部自身の想いについて触れています。

<https://sdgs.yahoo.co.jp/originals/182.html>



●Pick up 展示会情報

GX経営Week

(※弊社は出展しておりません。)
会期：2024年2月28日(水)～3月1日(金)
会場：東京ビッグサイト

みどりの食料システムEXPO

(※弊社は出展しておりません。)
会期：2024年3月5日(火)～3月8日(金)
会場：東京ビッグサイト

Insectopia インセクトピアの配信登録はこちらから！

QRコードを読み取り後、登録フォームよりご登録ください。ニュースリリースや採用情報、イベントなどの最新情報を配信中です。

